

復活節第6主日A年
神のことばを味わい、祈り、生きる



フラ・アンジェリコ 山上の垂訓

わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない (ヨハネ 14・18)

第1朗読 (使徒言行録 8・5-8, 14-17)

味わう

* エルサレムで起こった迫害を逃れて、食物の平等な分配を担当することになった7人のうち、フィリポはサマリアの町に行き、「人々にキリストを宣べ伝えた」。サマリア人は神のことばを受け入れ、救いを体験したものの、「主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかった」(16節)。

* エルサレムから来たペトロとヨハネは、「聖霊を受けるようにその人々のために祈り」ました。サマリア人の上にも「聖霊降臨」の恵みが与えられました。

生きる

* 迫害や試練によって救いの進展が妨げられることはありません。どんなことがあろうとも、神の救いの計画が実現していきます。希望をもって前向きに、復活されたキリストと共に歩もう。

祈る

* 集会祈願より～「いつくしみ深い神よ、どのような時も助け主である聖霊に支えられ、キリストとともに生きる恵みを、わたしたちに与えてください」。

答唱詩編 (詩編66・1+2+4, 5+9, 16+17)

神の驚くべきわざを思い起こす賛美の詩編です。奴隷の地からの脱出、荒れ野の旅の支え、約束の地に入ったことなどを思いめぐらしての祈りです。さらに、イエスの救いのことばとわざ、死と復活を思い、賛美をささげます。そして、神の救いの計画の実現を待望して唱えます。

* 「人々に行われたおそろべきわざを」、「神をおそれる者は耳を傾けよ」の「おそれる」は、びくびくする「恐れ」ではなく、敬う「畏れ」です。イスラエルの遊牧民族が、暑い一日の重労働

が終わって、夕方になって、涼しい風でテントの布がバタバタ揺れるのと同じように、神のことを想うとき心が嬉しくてぞくぞくする「畏れ」です。

* 聖書を開いて詩編66をゆっくり読み味わって、神のことを思い、ドキドキする感動の心が与えられるよう祈ります。

第2朗読 (ペトロの手紙一2・4-9)

味わう

* 「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」。福音による希望を人々に伝える使命を促すことばです。その使命を果たせるには、

+ まず、「心の中でキリストを主とあがめ」ます。祈りを通して、「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛そう」(典礼聖歌 390)。

+ そして、「抱いている希望について説明」をするように。まくしたてるのではなく、求める人にあかします。質問されたら話しますが、相手が質問をしたくなるような生き方を示します。

生きる

* 信仰を内面のうちだけの個人の宝にせず、生活の中で、苦しみや喜びの中で、人生の旅路の間に自由な発想で、共同体との繋がりを持ちながら、「神のわざを語ろう、わたしたちの上に行われたことを」(答唱詩編 66・16)

* 「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」(マタイ 5・16)

祈る

* 信仰を深め、あかしする恵みを願います。

* 福音をかしするに当たって、「穏やかに、敬意をもって、正しい良心で」できるように。

福音朗読 (ヨハネによる福音14・15-21)

味わう

* 今日の福音の始めと終わりに イエスは大事なことを教えてください。

+ 始めに、「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る」。愛があつてこそ、掟を守ります。

+ 終わりに、「わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である」。掟を守つてこそ、イエスを愛します。

これは、「イエスを愛すること」と「イエスの掟を守ること」が、信仰者の生き方の表と裏だということです。表と裏があつて、この両面は実際に切り離せません。

生きる

* 形だけの信仰生活ではありません。ヨハネの手紙にあるように、「神を愛することは、神の掟を守ることです。神の掟は難しいものではありません。」(一ヨハネ 5・3)

* 「その掟とは、神の子イエス・キリストを信じ、この方がわたしたちに命じられたように、互いに愛し

合うことです。」(一ヨハネ 3・23)

* 「わたしを愛しているならば」とイエスに問いかけられています。

* ペトロのように、「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることはあなたをご存じです」(ヨハネ 21・16) と答えられるなら幸い。さらに、だれとでも平和のうちに暮らし、互いに愛し合うように努めます。

祈る

* 第一朗読のサマリアの人々は、ペトロとヨハネの按手(あんしゅ)によって聖霊を受けました。わたしたちも洗礼・堅信を通して聖霊を受けました。すべてのいのちの源である父なる神と、「肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされた」(第1朗読)キリストへの祈りには、わたしたちは慣れていますが、聖霊への祈りを毎日でもささげるように努めます。

* 「あなたがたはこの霊を知っている」とイエスは断言しておられます。聖霊に心を開き、その導きを毎日祈ることによって、主イエスの弟子となり、父なる神の子どもとなります。聖霊とは、

- わたしたちを悪、争い、ねたみなどから守ってくださる弁護者である聖霊
- 永遠にわたしたちと一緒にいてくださる聖霊
- これからも、わたしたちの内においてくださる聖霊
- 「わたしたちを導いて真理をことごとく悟らせて」(ヨハネ 16・13) くださる真理の霊です。

拝領祈願より

「わたしたちの内におられるキリストと聖霊に支えられ、日々、愛と喜びをもって生きることが出来ますように」